

文部科学大臣表彰受賞決定

～平成27年度子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）～

子どもの読書を推進する活動が特に顕著と認められる学校・図書館・団体（個人）に対する、文部科学大臣表彰が行われます。

平成27年度の本県関係の受賞者は、下記のとおりです。

記

1 受賞した学校・図書館・団体（個人）

(1) 学校

- ◇錦町立西小学校（児童数 302人）
- ◇宇土市立鶴城^{かくじょう}中学校（生徒数 837人）
- ◇熊本県立矢部高等学校（生徒数 212人）

(2) 図書館

- ◇荒尾市立図書館

(3) 優秀実践団体（個人）

- ◇後藤^{よしこ} 良子（高森町）

・詳細は別添資料を御参照ください。

2 表彰式

- (1) 日 時：平成27年4月23日（木）13：00～16：15

子ども読書の日記念“子どもの読書活動推進フォーラム”にて

- (2) 場 所：独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟大ホール

※子どもの読書活動優秀実践校等表彰について

この表彰は、平成13年12月施行の「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受け、平成14年度から文部科学省が実施しています。

例年、「子ども読書の日」（4月23日）を記念し開催する子どもの読書活動推進フォーラムにて授与されています。

問い合わせ先

熊本県教育庁教育総務局 社会教育課
家庭教育支援班 担当 神田, 井上

TEL：096-333-2698

（内線 6696）

受賞した学校・図書館・団体（個人）の主な取組み

(1) 学校

◇錦町立西小学校(児童数 302人)

「読書量日本一を目指した読書活動の推進」に取り組んでいる。

図書委員会の児童が主体となり「一日一回は図書館へ行こう運動」を全児童へ呼びかけたり、魅力ある図書室づくりに向けて毎年「学校図書館デザインサポート事業」を活用したりするなど、読書環境の整備に努めている。平成23年度からは町費職員(教育支援員)を配置し、司書教諭と連携した読書環境整備や児童の相談に応じる業務を行っている。

また、地域住民や保護者ボランティア「読み聞かせグループこだまの会」による絵本の読み聞かせや紙芝居等が定期的に行われている。

さらに、熊本県立図書館や錦町立図書館と連携して、各クラス45～50冊の本を教室内に設置することで、「児童の手が届くところに本がある」環境づくりに努めている。

これらの取組みにより、児童の読書意欲が高まり、年間一人あたりの図書貸出し冊数は、平成23年度までの30冊程度から平成26年度は140冊を超え、大幅な伸びがみられた。

「読み聞かせグループこだまの会」
による読み聞かせの様子



◇宇土市立鶴城^{かくじょう}中学校(生徒数 837人)

平成24年度から読書活動の推進に重点的に取り組んでおり、図書館教育の全体計画や年間計画のもと、朝読書や地域ボランティアを活用した読み聞かせ等を通して読書習慣の醸成を行っている。

また、司書教諭及び学校司書補との連携、生徒会図書委員会によるしおり作りなど積極的な図書館運営により、年間貸出冊数が平成25年度は平成24年度の約1.6倍と大幅に伸び、平成26年度はさらに増加した。

(平成24年度:5,518冊、平成25年度:8,679冊、平成26年度:8,842冊)

さらに、図書館内の書架の配置、廊下の壁面掲示等の工夫を行い、読書に親しむ環境づくりを行うとともに、教科担当と司書補の連携や先生からの推薦図書紹介など学校全体を通して読書に親しむ環境づくりを行っている。

廊下壁面掲示の工夫



◇熊本市立矢部高等学校(生徒数 212人)

司書教諭と学校司書が連携し、図書部を中心として学校の教育活動における学校図書館の活用に積極的に取り組んでいる。特に、授業における学校図書館の利用状況は顕著で、教科・科目における調べ学習やLHR(ロングホームルーム)における進路学習などで図書館を利用する頻度は高い。

また、「朝の読書」については、毎日実施しているだけでなく、全職員が教室で行う「みんなで朝の読書」や新聞記事等共通の素材を読む「共通朝の読書」など創意工夫した独自の取組みも実施している。

さらに、生徒図書委員会の活動も活発で、生徒による広報誌の発行や特設コーナーの設置、文化祭での発表など、生徒への積極的な読書喚起を行っている。

このような取組みにより、生徒一人あたりの貸出し冊数は、県平均は年々減少し、10冊を下回っている中で、本校は3年以上に亘って12冊以上を維持している。

なお、毎年、国公立大学への合格者が出るなど、生徒の進路実績も充実している。

校内読書週間期間中に行った
本探しゲームの様子
(生徒図書委員会活動の一例)



(2) 図書館

◇荒尾市立図書館

「読書のまち あらお」を目指して、子どもたちが親しみやすく、いつでも気軽に図書館へ出かけたいような図書館運営・活動に取り組んでいる。

具体的には、ボランティア団体とともに行うおはなし会や出生前の赤ちゃんから参加できるプレママおはなし会、ブックスタート事業、高校生への読書支援のためにヤングアダルト文学講座や通信発行など、年代別の興味に合わせた事業を行っている。

また、学校との連携として、学校図書館関係者を対象としたブックカバー装備及び修理研修会や学校図書館のレイアウトの助言といった学校図書館の環境整備の充実・支援を行っている。

さらに、荒尾市子どもの読書活動推進実行委員会と協力した「子ども読書フェスティバル」を行っている。

このようなさまざまな活動を通して、子どもたちに「読書の楽しさ」「本の大切さ」を伝えるだけでなく、生きる力や判断する力を身に付けさせ、図書館で成長してきた子どもたちの一生の財産となり、健全な育成に寄与している。

子ども読書フェスティバル
人形劇「アラジンと魔法のランプ」



(3) 優秀実践団体（個人）

◇後藤 ^{よしこ}良子(高森町)

平成12年に私財を投じて、自宅敷地内に絵本館「木いちご」を建設し、約1,000冊の絵本を揃え、「親子が絵本を通して触れ合い、言葉を共有するきっかけにしてほしい」との思いにより、幼児及び小学生に対して絵本の読み聞かせの活動を行っている。これまでの絵本の貸出し冊数はのべ6,000冊にのぼり、中学生になっても訪ねてくる子どももおり、子どもたちの癒しの場となっている。

また、絵本館「木いちご」は、母親たちの子育て相談の場にもなっており、開館当初から通う女性もいるなど、絵本を通じて幼児教育、子育て相談等に多大な貢献をしている。

さらに、子どもたちに故郷を知ってもらうために町史(町の歴史書)を基に、方言を使った紙芝居を地域の読み聞かせグループと作成し、おはなし会で読み聞かせるなど高森町の幼児から母親まで幅広い人々に対して、道徳的教育や歴史的教育等を推進している。

幼児・児童等を対象にした
クリスマスおはなし会の様子



※参考

平成26年度における熊本県の受賞団体は下記のとおりです。

(1) 学校

- ◇八代市立 ^{かがみさいぶ}鏡西部小学校
- ◇天草市立河浦中学校
- ◇県立南関高等学校

(2) 図書館

- ◇宇城市立中央図書館

(3) 団体

- ◇絵本とおはなし風吹きからず（山鹿市）